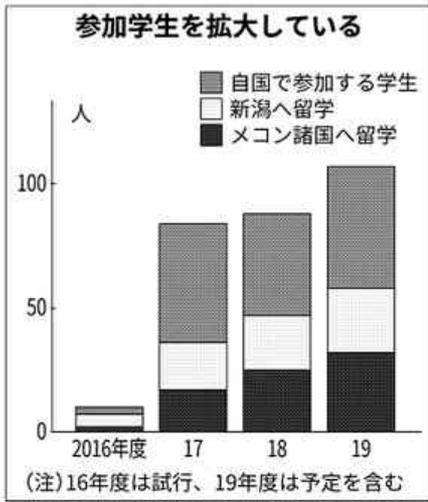


メコン流域で連携拡大

新潟大、19年度

新潟大学が、理系・工学系人材の育成でタイやカンボジアなどメコン川流域諸国の大学との連携を強化している。2016年度から新潟県内企業などでのインターンシップ（就業体験）を必修科目とする留学交流プロジェクトを始めたが、19年度は参加学生数を新潟とメコンの双方で過去最多となる100人超に拡大する。企業も学生の受け入れて協力し、グローバル人材の育成を後押しする。



理系や工学系人材育成 学生交流、双方で最多



新潟とメコン諸国の学生が就業体験などのグループワークに取り組む

生を相互派遣して双方の地域で混成グループを作り、共通言語を英語としてグループワークに取り組む。

留学期間は10日間、2カ月間、6〜12カ月間に分かれその一部を新潟県内の企業・団体やメコン地域へ進出する日系企業での就業体験に充てる。19年度はメコン地域に32人の新潟大生が渡航し、新潟では26人を受け入れる。自国での交流にも両地域の学生が計49人加わり、プロジェクト全体の参加学生は107人となる見込みだ。

16年度の参加学生は10人で、17〜18年度は80人台だった。「20年度も19年度とほぼ同じ規模の学生の参加数を見込んでいく」（新潟大の坪井望・工学部副学部長）。

企業による就業体験の受け入れも相次ぐ。これまで約4年間でのべ82社が参加した。企業はプロジェクトに協力することで、自社の知名度アップにつながるほか、外国人の積極採用に向けた検討などに生かしている。

「将来は、外国人に特化した採用活動を実施する可能性がある。どう対応するかなど検証したい」として約1カ月、学生を受け入れた。「これまで経験がなかったため、言語の壁の高さを改めて実感できた」という。IT（情報技術）企業のアイビオシステム（新潟市）も19年度に受け入れに参加。同社が計画するベトナム人の採用活動に向けて「現地の学生の考え方を知り、参考になる部分が多くあった」と若桑茂社長は話す。

GIDORMは諸外国と日本の学生双方に新潟の企業や地域への理解を深めてもらいつつ、グローバルで活躍できる理系人材を育成するのが目的だ。参加した新潟大の学生の卒業、修了後の進路は、大学院進学などを除き約9割が海外に拠点を置く企業となっている。メコン諸国は今後の経

済発展が見込まれ新潟の企業に進出も比較的多いことなどを踏まえ、4大企業との連携を決定した。「県内企業からは語学力などに秀でた理系の人材が不足している、との声が多い」（坪井副学部長）。プロジェクトを通じて優れた人材の育成と輩出を目指す。